

文 献	対 象	デザイン・介入	評価項目
(1) 報告者 (2) 西暦年 (3) 文献番号 (4) 実施場所 (国)	(1) 総数 (2) 年齢 (3) エントリー時における重症度 (4) その他ベースラインのデータ	(1) RCT or 非RCT (対照群10例以上、比較群10例以上、計20例以上のもの) (2) クロスオーバー or 同時対照 (parallel) or 記録対照 (3) (研究により) 前向き or 後向き (4) 各群の例数 (5) 実際の方法 (薬剤の名称・量・投与方法等) (6) 比較対照の内容 (プラセボの名称・量・投与方法等) (7) 追跡期間 (導入期間+試験期間)	(1) 主要アウトカム (2) 副次的アウトカム
(1) Oosting AJ. et al. (2) 2002、 (3) 1、 (4) Netherlands	(1) 86例、(2) 8~50歳、 (3) LSS severity active treatment群14、placebo群17、 (4) HDM RAST \geq 0.7 and/or 皮膚テストindex \geq 0.7 マットレスの塵中のDer p 1 またはDer f 1濃度 \geq 200ng/g dust	(1) RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) active群45例、placebo群41例、(5) Goretex bedding systemで患者の寝室の全てのベッドのマットレス、羽布団、枕を包む、(6) cotton encasingsで患者の寝室の全てのベッドのマットレス、羽布団、枕を包む、(7) 12ヶ月	(1) 臨床皮膚スコア、 (2)
(1) Koopman LP et al. (2) 2002、 (3) 2、 (4) Netherlands	(1) 1327例、(2) 不明、 (3) 不明、(4) アレルギー疾患を有する妊娠後期 (3rd trimester) の妊婦	(1) RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) 介入群810例 (active群416例、placebo群394例)、非介入群472例、 (5) ポリエステル綿マットレスカバー、(6) プラセボ介入群:綿プラセボカバー、非介入群:カバー無し、(7) 3rd trimester~産後2年まで:合計2年3ヶ月	(1) 乳児の臨床症状、 (2) Der p 量、血清総IgE値、抗ダニIgE抗体価
(1) Gutgesell C. et al. (2) 2001、 (3) 3、 (4) Gottingen, Germany	(1) 20例、(2) 18~30歳、 (3) 中等症~重症、 (4) 抗Der p CAP RAST >3、患者マットレス塵中のDer p 1量 >2ug/g dust、ペット飼育無し	(1) RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) 各群10例、 (5) アレルゲン通過阻止マットレスカバー、tannic acidとbenzylbenzoate含有のスプレー、(6) アレルゲン透過性マットレスカバー、水とごく微量のエタノール含有スプレー、(7) 1年間	(1) SCORAD、 (2) Der p 1量、血清ECP値
(1) L. Holm, et al. (2) 2001、 (3) 4、 (4) Stockholm, Sweden	(1) 43例、 (2) 18 \leq (active:31 [18-65]、placebo:30 [22-53])、 (3) SCORAD active: 47 (22-79)、placebo: 40 (15-75)、(4)	(1) 非RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) active 22、placebo 18、(5) active group: polyurethane-coated cotton encasings・12ヶ月、(6) placebo group: cotton cover・12ヶ月、 (7) 12ヶ月	(1) SCORAD index、(2) Der 1抗原量、Fel d 1抗原量、抗ダニIgE抗体価、sCD23値
(1) Friedmann PS, Tan BB. (2) 1998、 (3) 5、 (4) Southampton, UK	(1) 60例、(2) 7~65歳、 (3)、(4)	(1) RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) 開始時60例、終了時48例 active group:28、placebo group:20、(5) Goretex polyurethane bedding system、benzyltannate complex spray for the carpetsを 50 ml/m ² の割合で3ヶ月に1回実施、a high-filtration vacuum cleanerをカーベットは毎日、家の残りの部分は2~3回/週使用、 (6) light cotton bedcovers、water with a trace of alcohol spray for the carpetsを 50 ml/m ² の割合で3ヶ月に1回実施、a standard upright vacuum cleaner with a poor filtration performanceをカーベットは毎日、家の残りの部分は2~3回/週使用、(7) 6ヶ月	(1) アトピー性皮膚炎の面積と重症度、 (2)
(1) Boon B Tan, et al. (2) 1996、 (3) 6、 (4) Liverpool, UK	(1) 60例 (30成人、30小児) 48 (24成人、24小児)、 (2) 成人:平均30歳、小児:平均10歳 (脱落除く)、 (3) スコア20~25、 (4) アトピー素因有り (皮膚テスト)	(1) RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) active treatment群28例、placebo群20例、(5) Goretex bedcovers、benzyltannate spray、a high-filtration vacuum cleaner、 (6) cotton covers、water、a conventional domestic vacuum cleaner、(7) 6ヶ月	(1) 重症度、 (2) 塵収量、Der p 1量
(1) Sanda T. et al. (2) 1992、 (3) 7、 (4) Japan	(1) 51例、(2) 8~75歳、 (3) Grade 4.5以上、 (4) 抗Candida、cat、dog、Japanese cedar IgE抗体陰性	(1) 非RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) A群30例:抗ダニIgE抗体 \geq 3、CR治療; B群11例:抗ダニIgE抗体=0、CR治療; C群10例:抗ダニIgE抗体 \geq 3、CR治療なし、(5) A、B群患者は、トイレ以外には3~4週間クリーンルームから出ない、 (6) C群患者は、一般病室で外出自由3~4週間、(7) 3~4週間	(1) 臨床症状、 (2)
(1) Glover MT and Atherton DJ. (2) 1992、 (3) 8、 (4) London, UK	(1) 26例、(2) 平均10.26歳 (5~16歳)、 (3) 重症、(4) 過去に減感作療法の経験無し	(1) RCT、(2) 同時対照 (parallel)、(3) 前向き、(4) active群13、placebo群11、(5) チロシン吸収D. pteronyssinusグリセリン含有抗原液、皮下注射、週1回漸増法6週間、その後維持量 (400Noon units) 月1回6ヶ月、(6) チロシン浮遊液のみを同様の方式で実施、 (7) 第1相:8ヶ月、第2相:6ヶ月	(1) 症状日記、 (2)

脱落例数	結果	有害事象	エビデンスのレベル	備考
可及的に詳細を記載 わからない場合は“不明”と記載	報告者の結論をそのまま記載	可及的に詳細を記載（結論に影響するもの、報告者のサマリーを参照） わからない場合は“不明”と記載	評価法の見方を参照	(1) ITTの有無 (2) ランダム化の評価 (3) 盲検化の評価 (4) 併用療法
13例: 転居2、 ストレス1、妊娠2、 AD悪化1、class 3ステロ イド軟膏使用1、 不明1、塵サンプ ル不完全4	ダニを通過させないカバーによりDer 1抗原量が有意に減少。しかし、抗原量の減少と臨床指標とは有意な相関無し。ADの症状改善には他の環境（職場、学校、屋外）における抗原の減少が同様に重要かもしれない	不明	1	(1) ITT、(2) なし、(3) なし、 (4) 抗ヒスタミン薬、class 2ステロイド軟膏は、使用可
45例 詳細不明	妊娠後期から2歳までの乳児期のダニ通過阻止マットレスカバー使用により、2歳の乳児期の夜間咳嗽がプラセボ群に比して改善。他の呼吸器症状、AD、総IgE値、抗ダニIgE抗体価には変化無し。長期経過の検討が必要	不明	1	(1) ITTなし、(2) なし、(3) なし、 (4) 不明
なし	成人ADにおいては、1年間のダニ除去はアレルゲン量を減少させるが、疾患の活動性の改善は得られなかった	不明	1	(1) 脱落例なし、(2) なし、 (3) なし、(4) 局所療法のみ可
3例	寝具をpolyurethane-coated cotton encasings で包むことで寝具からのダニ暴露量及び湿疹の重症度を有意に減少させ、sCD30レベルを有意に減少させる。ダニに感作されていないあるいはダニアレルゲンに暴露していない患者にもベッドカバーの使用は寝具内の他の重要なアレルゲン、スーパーアンチゲン、刺激物への暴露量の減少により有効である。従って、ベッドカバーの使用はADの治療の一環として推奨する	不明	2 (同時対照群のある非RCT)	(1) 不明、(2) なし、(3) なし、 (4) mild topical steroids、emollients、short-term antibiotics
12例	Goretex bed bagsはベッド内にゴミを封じ込めることで非常に効果がある。本効果とアトピー性皮膚炎患者の臨床症状の改善と関連する。特に最も重症な患者に最大の効果がある	不明	2	(1) ITTなし、(2) なし、(3) なし、 (4) 布製の家具、玩具は寝室内には最小限とする。実施期間は6ヶ月
12例（10例はランダム化後治療前、2例はプロトコール違反）	ADの活動性は効果的なダニ除去で非常に低下した。ダニ除去が有用な患者の選定法について検討が必要	不明	2	(1) ITTなし、(2) なし、(3) なし、 (4) むいぐるみ玩具は寝室に持ち込まない。Normal rangeの治療は可
不明	CR治療はAD患者にとって有用である。その有効性は、ダニの糞を排除することができることによる	不明	2	(1) 不明、(2) なし、(3) なし、 (4) 全身療法は禁、局所ステロイドは可
なし	Dpによる減感作療法は標準の8ヶ月コースではプラセボと有意差なし。さらに長期間実施するとプラセボよりも効果があるかもしれない。ただし、長期実施症例数が少ないので明確な結論は出せない	局所症状（active群6例、placebo群6例）、めまい（placebo群1例）	1 (第1相)	(1) ITT、(2) なし、(3) なし、 (4) 不明